**第2章　気象**

**概況**

　昭和60年は季節の折り目が正しく、各季節を強調するような天候の特徴が現れた。主な特徴として、(1)寒冬・暖春・典型的な梅雨、盛夏猛暑・顕著な秋雨・初冬から冬本番を思わせる寒さ、と様々な記録と話題を残した。(2)上陸した台風は３個（6 ・13・14号）であったが、近畿地方への直撃はなかった。(3)集中豪雨等による気象災害は比較的少なかった。

**１月**

　冬型気圧配置となる日が多く、気温も平年よりl.3℃低く、寒い日が多かった。特に、月末は寒気の流入が強く、30日大阪ではこの冬初めての積雪を観測、また31日の“日最低気温”（－）2.7℃は、１月として低温第２位（昭和44年以降）の記録であった。降水量は平年の37％とこの月も少なく、これで前年７月から連続７か月平年を下回り、少雨傾向は続いた。一方、日照時間は平年よりかなり多く、１月の多照第４位（昭和44年以降）の記録となった。

**２月**

　強い寒波もようやく弱まり、上旬の気温は３月中旬から下旬並みの高い日が続いた。９日には春一番（平均日2月27日）が吹き、春の気配も感じられるようになった。しかし、月の後半は再び強い寒気が流入して、冬型気圧配置の日が多くなり、寒暖の変動が大きかった。また、各旬末にはまとまった雨が降ったため、前年７月以降続いていた少雨傾向は８か月ぶりに降水量が平年を上回り、水不足もやっと解消した。

**３月**

　西日本は、南海上に前線が停滞したため、曇りや雨の日が多く、多雨寡照の月であった。気温も変動が激しかったが、やや高めに経過したため、降雪（平均2.9日）や冬日（最低気温0℃未満）は観測されなかった。
　この年の桜（ソメイヨシノ）は、近畿地方では27日に潮岬で開花、その後順調に北上、29日に大阪で平年より３日早く開花した。

**４月**

　上旬・下旬の天気は周期的に変化したが、中旬は気圧の谷が次々と通り雨の日が多かった。全体として多雨多照の月であった。特に、日照時間は多く、４月として多照第１位（昭和44年以降）の記録であった。気温もやや高めに経過し、下旬にはこの年初めての夏日（最高気温25 ℃以上）を観測した。
　平年より３日早く咲きはじめた桜（ソノイヨシノ）は、その後一時寒の戻りがあったため、満開は平年と同じ４月８日となった。

**５月**

　月初めは、大きな移動性高気圧におおわれ晴天が続いた。その後、中旬にかけ天気は周期的に変化したが晴れの日が多く初夏らしい天気で、気温も平年より高めに経過した。
　下旬には、オホーツク海高気圧が強まるとともに南海上には前線が停滞するようになり、気温も平年並みとなった。

**６月**

　７日に平年より１日早く梅雨入りとなった。月初めは晴れの日があったが、梅雨入り後は雨の日が多くなり、18日から月末までは連日雨が続いた。特に、下旬は梅雨前線の活動も活発で、22日から23日、25日及び28日から30日は大雨が降った。月末には南方海上から台風６号が北上、紀伊半島沖を北東進、７月１日午前３時すぎに静岡県田子ノ浦付近に上陸した。

**７月**

　15日に平年より２日早く梅雨が明けた。梅雨期間は、38日間で平年より１日短かったが、大阪の梅雨期間の降水量は357mmと平年並みであった。月初め、西日本付近に梅雨前線が停滞し活動が活発であったが、上旬後半になり梅雨前線も次第に北上、月半ばまで日本海側に停滞したが、15日には梅雨前線も弱まり、近畿地方の梅雨は明けた。月後半は太平洋高気圧におおわれ、暑い晴天が続いた。
　また、６月18日から７月14日まで、連続27日間降雨（0.0mm以上）があり、降水継続日数第１位（昭和43年以降）を記録した。

**８月**

　太平洋高気圧におおわれて暑い晴天の日が続いたが、月前半は南方海上の台風などの影響で大気が不安定となり、雷雨や、にわか雨の日があった。 19日の最高気温は38.1℃で、高温第３位（昭和44年以降）を記録、また、月平均最高気温も34.6℃で、平年より2.2℃高くなるなど厚さの厳しい月であった。
　７月下旬頃から続いた高温と少雨の状態は８月も解消せず、大阪管区気象台は、８月27日高温と少雨に関する情報を発表した。 30日、台風第14号が南海上を北上、夜遅く三浦半島に上陸、31日には台風第13号が早朝に枕崎市付近に上陸したが、大阪では雨が降った程度で影響は小さかった。

**９月**

　月初めは、太平洋高気圧におおわれ強い夏型の気圧配置となり残暑が厳しかった。６日の最高気温は35.5℃で、９月として高温第１位（昭和44年以降）の記録となった。中旬以降は、秋雨前線が西日本付近に停滞、曇りや雨の日が多くなった。特に11日は、日本海を東進した低気圧に伴う寒冷前線の通過で、大阪府北部を中心に雷を伴った強い雨が降り、一部で浸水や落雷による被害が出た。

**10月**

　上旬は大体晴れたが、５日は東シナ海を北上した台風第20号の影響もあって、一時秋雨前線が活発となった。中旬は低気圧と高気圧が次々と通過して、天気は周期的に変化したが、下旬には移動性高気圧におおわれて晴れの日が多くなった。月半ばまで気温は平年より高い日が多かったが、月後半は気温が下がり秋も次第に深まった。

**11月**

　天気は周期的に変化したが、上空に寒気が入り大気の状態が不安定となり、にわか雨や雷雨の日が多く、特に12日は寒冷前線の通過で、雷雨があり所により雹が降った。また、２日は冬型気圧配置となり季節風が強く、木枯らし第１号を観測、気温も前日より4.7℃低くなった。 30日は大阪で初霜を観測、各地から冬の便りが聞かれた。

**12月**

　上旬末から下旬半ばまでは、強い寒気の流入で、冬型気圧配置が続き、初冬から冬本番を思わせる厳しい寒さが続いた。特に、中旬は寒く、旬の平均気温は平年より3.5℃低く、18日は大阪府北部を中心に積雪があり、能勢では9cmの積雪を観測した。大阪での寒候期現象は、１日に初氷を、16日には平年より12日早く初雪をそれぞれ観測した。